

平成28年3月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年3月における山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）で比較すると売上高4ポイント、収益状況2ポイント、景況感2ポイントともに増加と全体的に改善傾向にあるように見える一方、前月比で比較すると売上高は不変だが、収益状況、景況感ともに6ポイント悪化している。特に、製造業では前月比の売上高20ポイント、収益状況25ポイント、景況感15ポイントとマイナス幅が大きく2ヶ月ぶりに急激に悪化した。

例年、年度末のこの時期は親会社や大手メーカー等から生産調整による受注が多くあるが、長期化する中国経済の減速や原油価格の下落による原産国の経済低迷等の影響により受注減が昨年秋頃から続いている。国内需要の縮小や公共工事の減少も山梨県の地域経済を一層悪化させる要因となった。

しかし、日本銀行によるマイナス金利政策の導入により宅地購入希望者の増加や懸念されていた中国人旅行客も順調に推移している報告も寄せられた。

今後、価格競争や技能者の人手不足、物価上昇に伴う消費者マインドの低下等、景況感の悪化要因や経営課題に加え、平成29年4月に予定されている消費税率10%への引き上げへの不安感から企業や家計の支出抑制も懸念される。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ホテル・レストラン等向けの生食材は不調だが、ギフト商品（葬儀用）が伸長し、全体の売上は前年同月比99.8%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品は専門店向けは好調だが、量販店向けが不調。台湾向けの輸出は増加傾向だが、OEMは商品によって浮き沈みが大きく全体の売上は91.6%と不調。
食料品（菓子）	原材料が高騰しているが、販売価格に転嫁できないため経営は厳しい。
繊維・同製品（織物）	ネクタイ、裏地、傘地ともに厳しい状況。これまで好調だったインテリアにも受注に陰りが出てきた。
繊維・同製品（アパレル）	業況はよくない。
窯業・土石（山採石）	平成28年3月に入り、骨材関係の年度末需要は山梨経済始まって以来の悪化。
鉄鋼・金属(1)	横ばい状態から悪化、円高による生産調整が続くと予測。
鉄鋼・金属(2)	悪い状況が続いている。年々、悪化傾向。
一般機器	国内の景気は円高・株安と世界経済の低迷により、厳しい状況が続いている。半導体関係は動きが見え始めたが、輸出関係、内需ともに低迷しており先行きが不透明。
その他(貴金属①)	受注状況が若干良くなってきた感がある。

● 非製造業

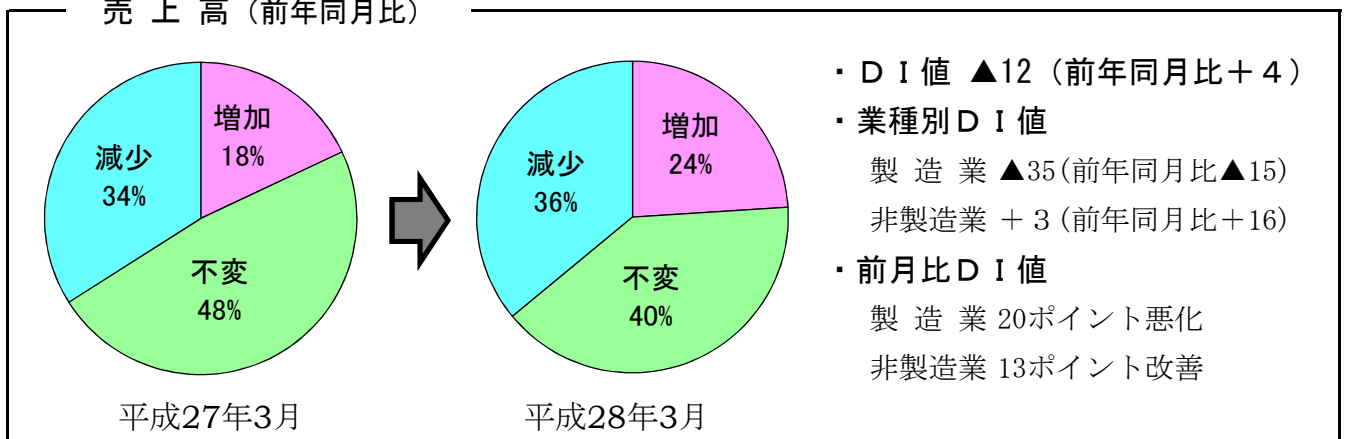
卸売（紙製品）	中国の景気減退の影響はあるが、国内の需要が増加しており業者間の仕入競争が激化しているため収益は悪化。また、県外資本の企業進出もあり業況は厳しい。
小売（青果）	天候不順により市場の入荷量の減少や販売価格が高騰、大型店舗の乱売り等により売上は減少。
小売（食肉）	高値安定が続いている。今後、国産牛は昨年度以上に高騰する見込み。
小売（電機製品）	大型量販店は好調だが、地域小売店はテレビや太陽光発電等の受注減により前年同月比マイナス15%。
小売（事務機文具）	顧客からの値引き依頼が多発しており、対応ができなければ受注に繋がらない悪循環になっている。
小売（石油）	原油価格の上昇に伴い卸価格も上昇しているが、販売価格に転嫁できない状況。
商店街	消費者マインドが、さらに落ち込んでいる。
不動産取引	宅地購入希望者が増加傾向にある。賃貸物件の動きは一段落した。
宿泊業	春節以降も中国人観光客は順調に推移しているが、人材不足が続いている。
廃棄物処理（産廃系）	少子高齢化や業態の変化によるコストアップのため、これまでの条件での取引は困難になってきている。
警備業	公共工事の受注量の減少と契約条件の強化により完成期日及び工作物の完成検査引き渡し条件が厳しく工期の圧縮などによる警備期間も圧縮されたため、3月末は多忙を極めた。
建設業（総合）	3月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数で26%、請負金額で56%増加。3月までの累計では、件数8%、請負金額10%減少、H27年度は公共工事が減少した。
建設業（住宅関連）	新築工事の受注が減少。
建設業（鉄構）	県外物件の依存度が高く、県内の動きは少ない。
設備工事（電気工事）	公共工事は例年に比べ落ち込んだ。民間工事もないため、このままだと県内の事業者が淘汰されていく。
設備工事（管設備）	アパート等の賃貸物件の増加により売上は増加。
運輸（タクシー）	売上は、前年同月比約7%増加。
運輸（バス）	運行単価が値上がりした分、仕事量、稼働率が減少した感がある。しかし、運賃の改正や燃料の値下がりにより利益率は上昇した。
運輸（トラック）	ドライバー不足が深刻化。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

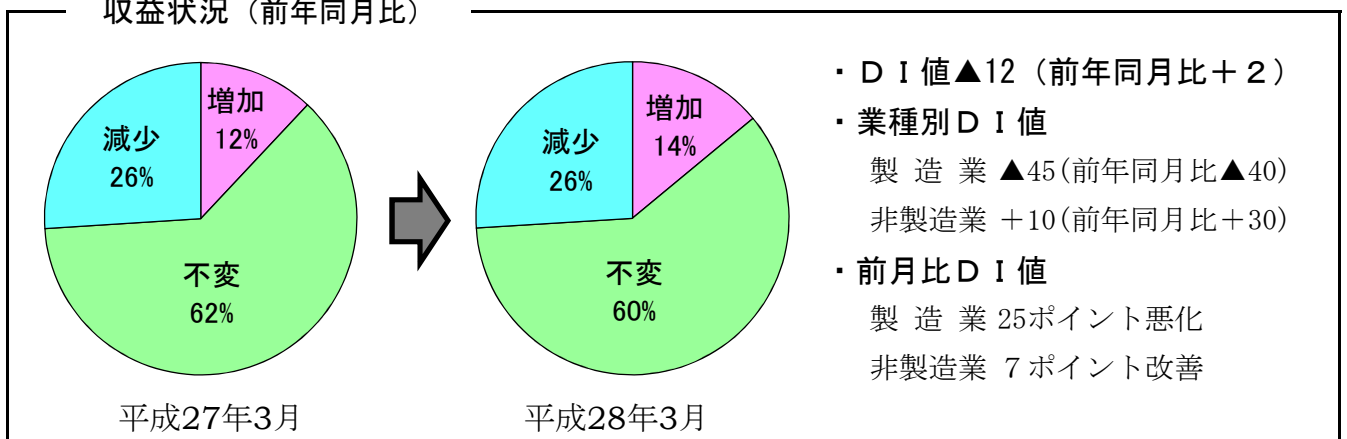
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/3	2016/2	2016/3	2015/3	2016/2	2016/3	2015/3	2016/2	2016/3
売 上 高	-20	-15	-35	-13	-10	3	-16	-12	-12
収 益 状 況	-5	-20	-45	-20	3	10	-14	-6	-12
景 況 感	-15	-25	-40	-30	-10	-10	-24	-16	-22

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

